

A-1 三馬小学校における特別活動について

三馬小学校における特別活動について

(1) 基本的な考え方

本校の学校研究主題「考え動き出す子」を、特別活動委員会では、次のようにとらえている。

＜責任ある行動・企画していく力・問題を解決していこうとする姿勢＞	
低	自分の役割がわかり、楽しく活動する
中	考えを出し合い、思いやりを持って活動する
高	見通しを持ち、自ら考え、責任を持って活動する

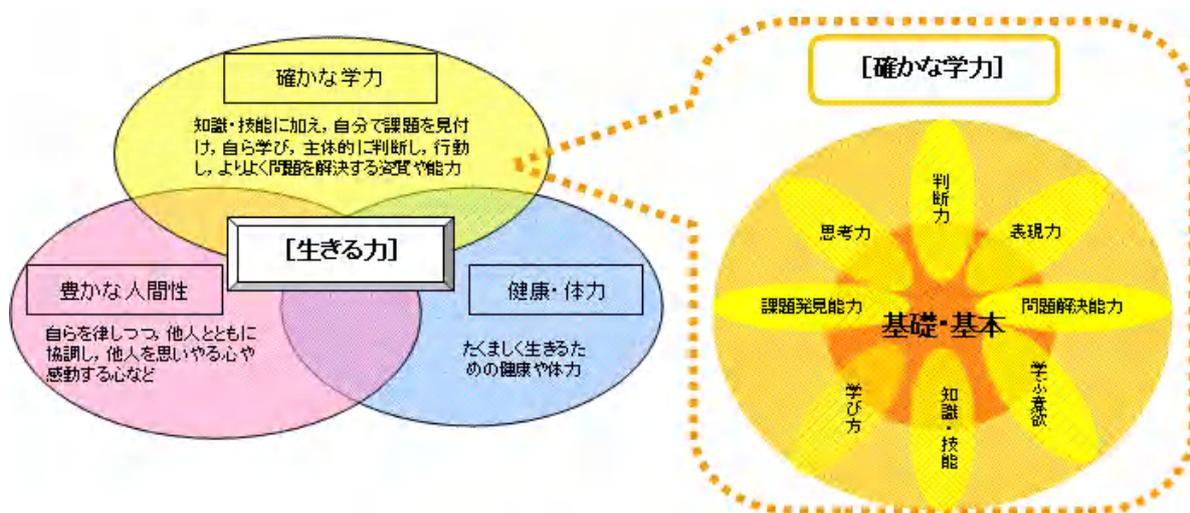
- ・ 各学級・各学年の教科指導や総合的な学習の中で育まれる力を基盤として、子どもたち自身が責任感を持って主体的に考え、取り組もうとする思いを大切に、それらを伸ばしていくことができる場づくり
- ・ 認め合い、共感できる場づくり
- ・ 発達段階を考慮し、子どもたちに願う姿を意識した指導
- ・ 学級活動や委員会活動などの場で主体的に話し合う姿勢を育てる。

これらを大切にして、「学級活動」「児童会活動」「クラブ活動」「学校行事」を通して「考え動き出す子」を目指している。

それぞれの本校での取り組みを昨年度の反省を踏まえて紹介する前に、ここでまず、特別活動について考えてみたい。

特別活動の目標は「望ましい集団活動を通して、児童の心身の調和のとれた発達を図るとともに、自主的、実践的な態度を育成する」であり、この目標がねらうものはまさに「生きる力」であると考え。この「生きる力」とは「自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する能力、自らを律しつつ、他人と協調し、他人を思いやる心や感動する心など豊かな人間性とたくましく生きるための健康や体力」と中央教育審議会では定義されている。また、「“生きる力”は、全人的な力であり、幅広く様々な観点から敷衍することができる。まず、“生きる力”は、これからの変化の激しい社会において、いかなる場面でも他人と協調しつつ自律的に社会生活を送っていくために必要となる、人間としての実践的な力である。それは、紙の上だけの知識でなく、生きていくための「知恵」とも言うべきものであり、我々の文化や社会についての知識を基礎にしつつ、社会生活において実際に生かされるものでなければならない」（中央教育審議会「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について」([第一次答申抜粋](#))平成8(1996)年7月19日)とも述べられている。

中央教育審議会「初等中等教育における当面の教育課程及び指導の充実・改善方策について」(答申)(2003年10月7日)では、「新学習指導要領の基本的なねらいは“生きる力”の育成」とした上で、「各学校では、家庭、地域社会との連携の下、“生きる力”を知の側面からとらえた“確かな学力”“育成のための取り組みの充実が必要。」と述べている。(“確かな学力”とは、知識や技能に加え、思考力・判断力・表現力などまでを含むもので、学ぶ意欲を重視した、これからの子どもたちに求められる学力)このように、特別活動における「学級活動」「児童会活動」「クラブ活動」「学校行事」と、教科における確かな学力の育成を通じた、学校生活全般で育てていく力を指していると考え。



中央教育審議会 「初等中等教育における当面の教育課程及び指導の充実・改善方策について(答申)」
(2003年10月7日) 参照

ここで、現状の学校において考えてみたい。学校行事はご存知のように、年間90時間から60時間以下に押さえ込まれた。その中で委員会活動を主とした児童会活動も行っている。クラブ活動は年間20時間の確保と少ない時間の中、時数を工面するのに腐心している。また、学級活動の内容は(1)(2)で35時間。(1)学級や学校の生活の充実と向上に関すること(クラスのことについての話し合い活動としての学級会と、係決めなど)(2)日常生活や学習への適応及び健康や安全に関すること(生活の見直し、安全指導、給食指導、保健指導、図書館の利用についての指導)があるが、(2)の方に時間をとられ、話し合い活動としての学級会は、定期的に時間をとることが難しいというのが現状である。このような現状の中で、特別活動を通して、“生きる力”をどのようにして育み、どのようにして評価し、それを今後の指導にどう活かしていくかを学校として共通理解することは大切であると考える。

(2) 各内容について

①学級会活動

学級活動の時間の中には、(1)学級や学校の生活の充実と向上に関すること(クラスのことについての話し合い活動としての学級会と、係決めなど)(2)日常生活や学習への適応及び健康や安全に関すること(生活の見直し、安全指導、給食指導、保健指導、図書館の利用についての指導)があるが、(1)の方に時間をとられ、話し合い活動としての学級会は、定期的に時間をとることが難しい。また、高学年、特に6年生は決めなければならないことが多く、時間的に余裕がない。委員会活動の中での話し合いの様子を見ていても、経験不足が見られる。そこで、本校では、話し合い活動としての学級会の時間をできるだけ確保し、積みあげを目指している。

低学年	学級会の意味を知り、教師が進行しながら学んでいく。
中学年	特に学級会に力を入れ、経験を積み重ねていく。
高学年	時間の確保が難しいが、「決めなければならないこと」の中で、子ども達が自主的に話し合いを進めていくように働きかける。また、実行委員や委員会・クラブ活動でもその力をいかす。

また、“確かな学力”にも関連するが、国語科における話し合い活動の単元を中心に、「言語的理解力」と「言語的表現力」を身につける必要がある。

学級内における係活動の中で、相互評価や振り返りをする時間を持つことで、より責任感を持って

取り組むようにしている。

②児童会活動

委員会活動では、“責任ある行動”に重点を置いている。学校がよりよくなるためには、自分の仕事が大切であることを知り、責任を持って自分の役割を果たせるように下記のような支援をしている。

- ・ 玄関前の掲示板を活用し、委員会やクラブの連絡に利用し、全校児童がそれを見ているような情報を得るようにする。「いつ」「どこで」「どんな活動をしているか」を広め、クラブの連絡はその掲示板を使い、児童は必ずそこをみて準備するようしていく。
- ・ 1時間の委員会活動の見通しを持たせるために、事前の担当教師との打ち合わせし、司会・進行の仕方を教えていく。
- ・ 代表委員会（児童会）から、学校全体の問題など各学級で話し合う内容を提案し、学級会活動につなげていく。
- ・ 委員会活動の中で常時活動ばかりでなく、できる委員会で創造的活動を取り入れていく。

本校の児童集会は、年間行事の見直しから、以前に比べ縮小の傾向にある。それに伴い、高学年が、全校児童の前に立って話をする機会や経験が少なくなってきた。そこで、昨年度から、委員会紹介の集会を児童集会として行っている。ここでのねらいは、「全校みんなのためにがんばっているという自覚と責任を育てる」「全校児童の前で委員会の活動を、わかりやすく伝える力（表現力）を育てる」「低・中学年は、楽しく過ごしやすい三馬小にするために、高学年の児童が日々がんばっていることを知る。」とした。方法と内容は、14委員会すべてが参加し、なるべく多くの児童が発表する機会をもてるようにした。短い時間のなかではあるが、聞いている側の聞く姿勢や態度、発表側の人前で話すことの経験や、委員会に対する責任感が育ちよかった。ほとんどの5・6年生が参加し、発表しなかった児童も事前の準備や裏方として活躍した。

③クラブ活動

先にも述べたとおり、本校は人数の割には運動場や体育館が狭い。毎年、運動系のクラブに人気が集出し、希望のクラブに入れたい児童が多数いる。なるべく児童の希望を叶えたく、運動系のクラブをA/Bに分け、トレーニングと試合を交互に行う、調理クラブはA/Bの2つにわけ、計画と実習を交互に行うなどの工夫を行っている。また、ここでは、企画していく力の育成と異学年交流を主なねらいにしている。

④学校行事

本校の特別活動の取り組みの特色として、実行委員形式がある。各学年4クラス規模であること、学級活動だけでなく、高学年に向け、一部の児童ではなく、すべての児童に企画・運営などの経験を与えることをねらいとし、高学年に向けて、意識的に実行委員形式に取り組んでいる。各学年のねらいは以下の点である。

低学年	実行委員や進め方を知る
中学年	経験を積み、なるべく全員が取り組む
高学年	自分達で企画・運営できるようにする。特に企画力をつける。

実践例 4年生での取り組み

- ・ チャレンジマラソンなどの活動でも実行委員形式をとった。各クラスから実行委員が集まり、個人のめあてだけでなく、4年生全体としてチャレンジマラソンにどのようなめあてを持って取り組むかを考えることにより、より意欲的に自主的に取り組む姿が見られた。

チャレンジマラソンの学年目標 「4年生全員で10000周を目指そう！」

- ・ 遠足に実行委員形式を取り入れた。「学年みんなが仲良くなろう」というめあてを、実行委員が立て、それに向けて4年生全員でする鬼ごっこ、各クラスを分け、4クラス混じった集団でのH₂O、並び鬼など、実行委員が考えたゲームを事前に練習し、当日実行した。子ども達は、自由時間ばかりの遠足とは違い、学年全体で遊んだことで、新しい友達が増えたり、学年としての連帯感が生まれたりした。

また運動会では、総合的な学習の一環として「三馬小の伝統を受け継ごう・伝えよう」と、3年生は「三馬っ子音頭」4年生は「南中ソーラン」5年生は「組体操」6年生は「若い力」をそれぞれ、下級生に伝えていく活動も行っている。これらの活動で、上の学年としての自覚を養い、責任感を持つことができるといった点で有効であった。